

杉谷四号墳（四隅突出型方墳）

この古墳は、杉谷古墳群のなかのひとつで、呉羽山丘陵南端の縁辺部に位置しています。四隅が舌状に突出する特異な形の四隅突出型方墳で、弥生時代終末期に作られたものです。

墳丘の一辺25m、高さ最大3.9m、突出部の長さは墳丘の角から平均15mを測り、墳丘を囲む溝を含めた一辺は50mの規模となります。

四隅突出型方墳は、弥生時代の中頃に山陰地域に発達しました。このような形の古墳は、山陰地域と北陸地域だけで築かれており、福井県・石川県で数基、県内では呉羽山丘陵に4基、その南部の羽根・富崎丘陵に6基の計10基が確認されています。

北陸の四隅突出型方墳は、墳丘の裾に貼石や列石がなく、周溝があるなど、山陰のものと違いがあります。山陰の影響を受けて四隅突出型方墳を築きながらも、独自の墳墓形式を確立していったと考えられます。

当時の越と出雲の関わりは、地名や神話などの研究からも指摘されています。この古墳は、「日本海文化圏」という考え方の大きな柱の一つとなりました。

平成22年1月 富山県教育委員会

富山市教育委員会